

同女大仮想企業 Sankaku

園児のアンブレラスカイへ

14日 京都田辺RCとランチ協力 まで

同志社女子大学の2年生3人からなるバーチャル企業 Sankaku (さんかく) 主催のイベント「スカイネット・想いをつなぐプロジェクト」が、京田辺市山手中央の複合型商業施設「プランチ松井山手」で始まった。

学生が企画し、プランチと京都田辺ロータリークラブ(米田泰子会長)が会場提供、設備、費用をサポートした。

仮想企業は、同大学社会学部メディア創造学科「プロジェクトプランニング演習」(関口英里教授)で地元密着の商品開

発やイベント企画に取り組みグループ。今回は学生の相談を受けた市立松井ヶ丘保育園



アンブレラスカイの設営に励んだ社員とロータリー会員たち



好みの色を選んで自由にペイントしていく園児たち(松井ヶ丘保育園)

の年中児54人が「つながり」をテーマにイベントカラーと呼ばれる油性塗料を用い、様々な色を好みに選んでビニール傘を

キャンパスに思いのまま描いていった。ランチで今月6日に始まった展示は、2階から吹き抜けに向かって園

児たちの力作をずらりと並べて吊るす「アンブレラスカイ」をまさに体験。家族連れなど来場者の注目を盛んに浴びている。

毎週土・日曜には、社員とロータリー会員が、展示を見た来場者から園児に向けてのメッセージを呼び掛けている。

社長の岸史花さんは「コロナ禍、保育園の子どもたちが地域の人との交流の機会を減らしている」と聞いて生み出した企画。園児がペイントして完成させた作品をぜひ見に来てメッセージを寄せてとアピールする。同社の社員は次の皆さん。

岸史花(社長)、中村奏穂(会計・総務)、遠藤夢奈(広報)



ランチ松井山手でカラフルな力作群をご覧あれ

近砂利青年部会

い砂の配達で「園児らに笑顔を。」

城陽市内幼保などへ配達



い砂で飛び跳ね遊ぶ園児たち

長)は10、11の両日、市内にある私立・市立幼稚園・保育園の13カ所を巡回し「い砂場の環境整備に」と、計52トンの良質な砂をプレゼントした。

今年で27回目の奉仕事業。午前9時、同組合加盟の檜城南工建設「城陽市中西原」でい砂の提供してもらい、同社前でスタート式が行われた。集まったメンバーら9人を前に、長尾部会長が「毎年大勢の園児たちが真新しい砂が届くのを楽しみに待っているの笑顔になってもらうとうらやま」と挨拶した。

そのうち、初日の同市立青谷保育園(鈴木美湖園長)「同市中樋ノ上」では、ぶどう組(5歳児)12人の子供たちが園庭に到着したトラックから良質な砂が積み降ろされると歓声を上げた。メンバーらにお礼を述べ、記念写真に内まつと、園児たちの力作をずらりと並べて吊るす「アンブレラスカイ」をまさに体験。家族連れなど来場者の注目を盛んに浴びている。



園児らに笑顔を...と結束するメンバーら

大切な税子供目線で

久御山17日小学生の絵画展

久御山町役場で、11日から「税に関する小学生の絵画展」が始まり、町内児童の個性豊かな作品が1階ロビーに展示されている。「税を考える週間」(11、17日)に合わせ、山城地区租税教育推進協議会が市町村単位で毎年開催している。同町では町立3小学校の38人が出展した。テーマは「税金でつくられているもの」。子供たちは学校や公園、



あり、社会を支える税の意義や役割を子供の目線から伝えている。17日(水)まで、午前8時30分から午後5時、土・日曜も開けし、自由に観賞してもらう。